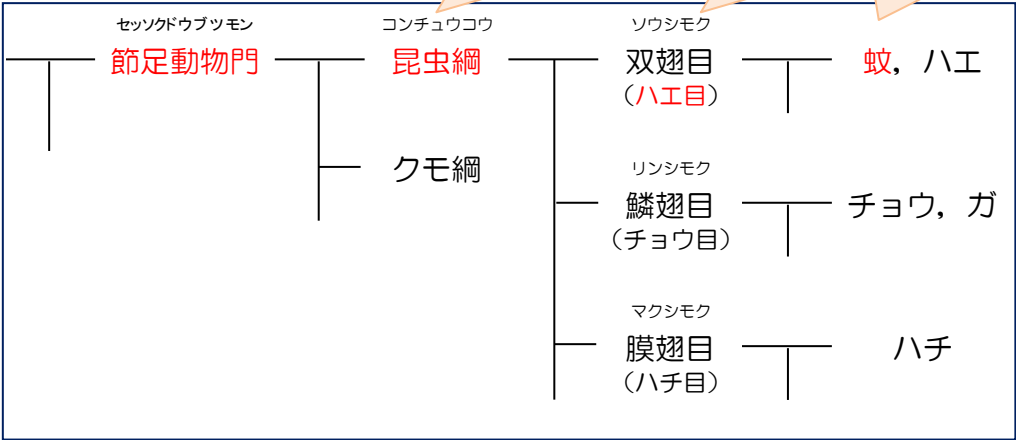


# 蚊

蚊は私達の身近に生息し、人などの動物を吸血する昆虫ですが、かゆみを伴うため非常に不快です。蚊はチョウやガ、ハチの仲間と同じように翅が生えていて飛ぶことができますが、これらは翅の形態で分類されており、ハエの仲間になります。



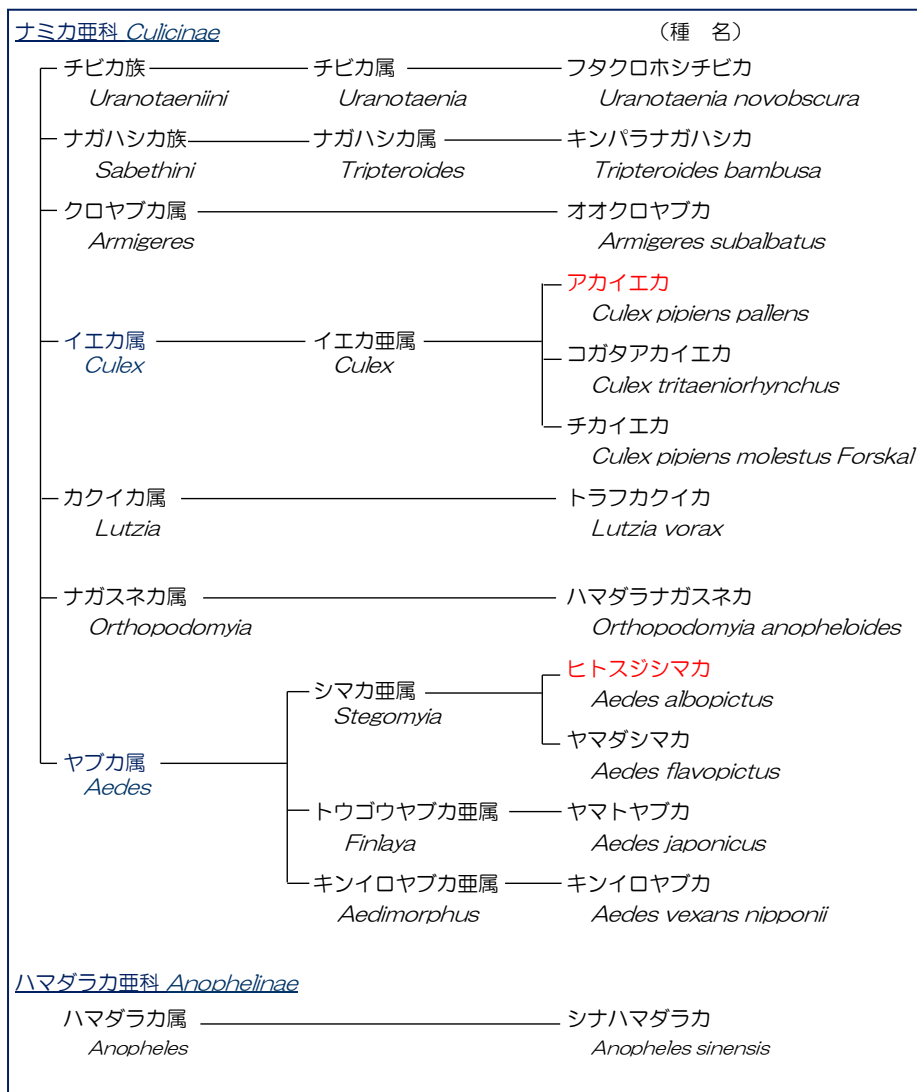
## 蚊の種類

世界には3,000種類以上また、日本には100種類以上の蚊が生息しています。約60年前の調査によると、京都市内で確認した蚊は約40種類でしたが、最近の調査では約10種類を確認しました。

(1950年代)			(2010年代)
アカイエカ	コガタアカイエカ	ハマダラウスカ	アカイエカ
アカクシイエカ	コガタクロウスカ	ハマダラナガスネカ	オオクロヤブカ
アカツノフサカ	コバヤシヤブカ	ヒトスジシマカ	キンイロヤブカ
アシマダラヌマカ	シナハマダラカ	フタクロホシチビカ	キンバラナガハシカ
エセシナハマダラカ	シロカタヤブカ	フトシマフサカ	コガタアカイエカ
オオクロヤブカ	スジアシイエカ	ブナノキヤブカ	シナハマダラカ
オオモリハマダラカ	セシロイエカ	ミスジシマカ	チカイエカ
カラツイエカ	チカイエカ	ミツボシイエカ	トラフカクイカ
キョウトクシヒゲカ	トウゴウヤブカ	ヤマダシマカ	ハマダラナガスネカ
キンイロヌマカ	トラフカクイカ	ヤマトハマダラカ	ヒトスジシマカ
キンイロヤブカ	トワダオオカ	ヤマトヤブカ	フタクロホシチビカ
キンバラナガハシカ	ハトリヤブカ		ヤマダシマカ
			ヤマトヤブカ

聞いたことが無い蚊の名前があると思います！

蚊は、多くの仲間に分類されます。



調査は途中ですが、我々を取り巻く環境などの変化が、生息する蚊の種類に大きく影響していると思われます。

### 蚊が発生する場所

蚊は、種類により発育や生息する場所が異なります。(害がある蚊)

発生水域		種類
小水域	空き缶、古タイヤ、竹の切り株 墓所の花受け、手水（ちょうず） 植木鉢の受け皿、雨水マスなど	ヒトスジシマカ ヤマトヤブカ
中水域	防火用水、肥料溜、どぶ、下水 側溝、浄化槽、湧水槽など	アカイエカ チカイエカ オオクロヤブカ
大水域	水田、沼、溜め池など	コガタアカイエカ シナハマダラカ



ヒトスジシマカ



アカイエカ



キンバラナガハシカ



ハマダラナガスネカ



フタクロホシチビカ



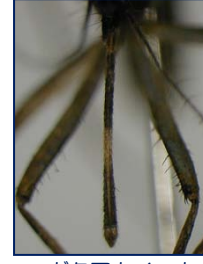
ヤマトヤブカの縞模様の背中



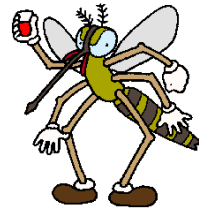
トラフカクイカの虎斑模様の足



シナハマダラカの斑紋のある翅



コガタアカイエカの白帯のある吻(口器)



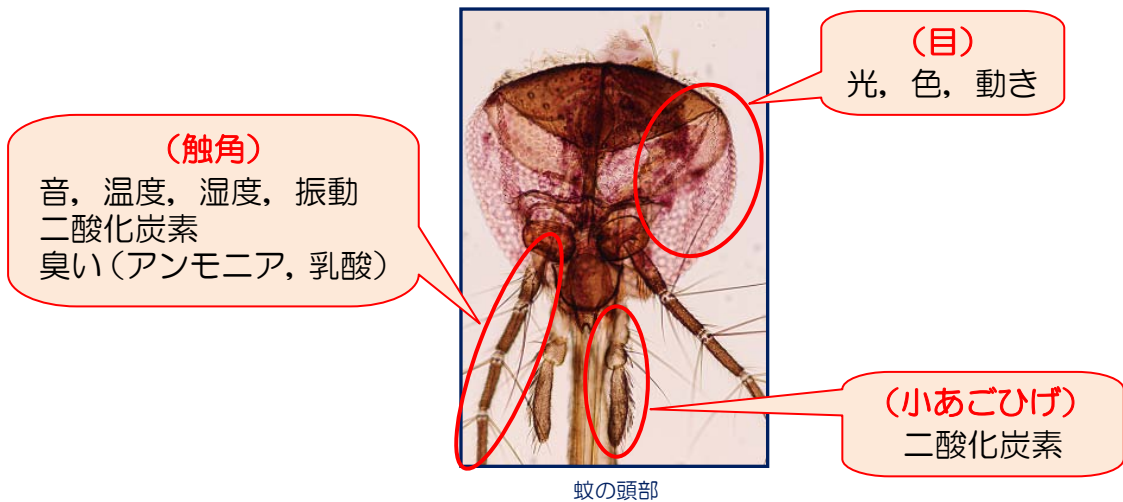
## 吸血

蚊はメスだけが、しかも産卵する時だけに動物の血を吸いますが、動物の種類に好き嫌いがあります。

ヒトスジシマカは人、アカイエカは鳥類、フタクロホシチビカは爬虫類を好みます。産卵しないメスやオスの蚊は、草の汁などを吸っています。

### ① 吸血する相手を探知する

蚊は、いろいろなセンサーを持っていて、これらの情報から血を吸う相手を探し出します。



## ② 血液を探り当てる

動物の皮膚のすぐ下には真皮があり、細い末梢血管が通っています。  
蚊は、その中の血液を感知することができます。

## ③ 口針を打ち込む

口針を毛穴か皮膚のひだに刺し、小あごの片方で皮膚を切り込み引っかけ、もう片方でさらに切り込み、その間に口針を打ち込みます。(6-7回/秒)

口針は、上唇、1対の大あご、咽頭、1対の小あごの6本が伸びて構成されています。そして、見えている長い口器である吻(フン)は、口針が伸びた下唇により、鞘のように包み込まれたものです。

## ④ ポンプによって血液を体内に送り込む

頭の中にある2段階の血液だまりを順に収縮することで、血液を食道に押し流します。



## ⑤ 血を吸われた後が痒い

吸血する間、血液が固まらないようにするため、抗凝固物質を含む唾液を注入しますが、この唾液に対して急性(2-3分後)または遅延性(1-2日後)のアレルギー反応をおこすため、腫れや痒みの症状が起こります。  
症状が出ない人もいます。



吻(フン)  
差し込まれるのは、中にある口針



小あご  
ノコギリ状の刃があります。



## 蚊の被害に合わないためには

### 忌避剤

蚊、ブユ、アブ、ノミ、ダニなどによる吸血を防止するのに忌避剤が重要な役割を果たします。忌避剤は、熱帯地で行動する兵士を蚊が媒介するマラリアなどの感染症から守るために開発されました。その中で、DEET（ジエチルトリアミド）は1946年、米軍によって開発され、1957年に一般向けの忌避剤として登録され、効果や安全性について最もデータが蓄積されています。

DEETの忌避性は、血を吸いに蚊が寄ってきた時、気化したDEETが触角に入るとセンサーが攪乱され、吸血源の位置が判らなくなるためと考えられています。



#### DEET 使用時の注意

- ① 傷口、目、口の周りを避けて塗布する。
- ② 外出から戻ったら、塗布面は石鹸を使って洗い流す。
- ③ 小児は、手で口をぬぐうことがあるため、手のひらに塗布しない。
- ④ 小児の手が届かないところに保管し、大人が必ず塗布する。

### 服装に注意しましょう。

外出する際は、皮膚が露出しないように、長袖シャツ、長ズボン、靴下を着用し、蚊に刺されにくい服装をしましょう。また、夕方や夜間は、蚊の吸血行動が活発になるので注意が必要です。

### 家のなかでは・・・

- ✓ できるだけ空調を用いて窓を閉め、外部と遮断しましょう。
- ✓ 窓には網戸を設けましょう。
- ✓ 殺虫剤（蚊取り線香、液体・電気蚊取りなど）を活用しましょう。これらの成分はピレスロイド系の薬剤で、殺虫効果だけではなく、室内侵入を防ぐ忌避効果もあります。



### 家の周りでできること

不用意に放置された人工的容器類は、雨などで水が溜まるとヒトスジシマカなど、ヤブカ類の発生源になります。（空き缶やペットボトルの蓋くらいでも発生します。）これらの発生源を無くすことがヤブカ類の発生源対策に重要です。

当研究所が調査したところ、雨水マスには、ヒトスジシマカとアカイエカが同等に発生していました。





## ヒトスジシマカ幼虫の発生源



蚊の病原性については当研究所のホームページ、暮らしの安全・安心情報「健康を害するウイルス！」<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000175402.html>の特集をご覧ください。